

資料①：第 1 回会議の議事録

平成 26 年 2 月

南城市

1.実証運行計画について

委員	事務局
21 時までの運行は必要ないのではない か。	市内にはナイトスポットとなるカフェや飲食店が あり、観光振興の観点から夜間の運行を行い、その効 果を検証したい。
病院の受付開始時間にあわせて、開始・終 了時間をそれぞれ 30 分早めてもよいので は。	運行時間については、実証運行を行いながら、利用 状況や時期を考慮して、見直していく。
観光客向けには、周遊ルートを検討とある が、具体的にはどのようなルートを想定して いるのか。	新たにオープンした地域物産館に駐車してもらい、 そこを起点に回遊するルートを検討している。(資料 ②参照)
車両はジャンボタクシーサイズとなっ ているが、観光客の荷物を考慮すると、車両サ イズが小さくないか。	南城市は道路幅が狭い道が多いため、極力ドア to ドアで移動できるようジャンボタクシーとしている。

2.実証運行における対応について

委員	事務局
利用者の移動がバスの路線と重複する場 合はどのように対応するのか。	路線バスと連携した交通体系づくりの一環として デマンド運行を行っていることから、基本的には最寄 りのバス停までの運行となる。ただし、最寄りバス停 での待ち時間が非常に長くなる場合などは、バスロケ ーションシステムなどを参考にして、柔軟に対応す る。
昼から酔って迷惑をかける客の利用も考 えられるが、何か対応は考えているのか。	実証運行の利用対象条件を満たしていれば、利用を 制限する考えは特にない。(趣旨は異なるが、一人で 乗り降り出来る方を利用条件としている)
利用方法、配車方法はどのようになっ ているのか	利用者がコールセンターに電話し、オペレータがシ ステムを操作することで、システム側で自動的に配車 するようになっている。

3.既存の交通機関への影響・活用について

委員	事務局
タクシー事業者にはどのくらいの影響を見込んでいるのか。	タクシー事業者への影響は、現段階では予測困難であり、実証運行を通じて把握する。
実証運行に4,000万円の経費をかけるのであれば、既存のバスやタクシーを活用した方法もあるのではないか。	実証運行のねらいは、公共交通に対するニーズはあるものの、公共交通を利用できていない潜在的なニーズの掘り起こしであり、デマンドバスによる外出機会の増加に伴い、公共交通全体の利用者の増加を期待している。（行きはデマンド、帰りはバス、タクシーという移動パターンも考えられる） なお、実証運行費用4,000万には、初期のシステム構築費用、調査費等が含まれている。
本格運用については、市内の交通事業者を活用した方がよいのではないか。	他府県の事例でも、タクシー会社やバス会社に委託しているところが多く、南城市でも実証運行を通じてタクシー会社等での運行の可能性を検証する。
宮古島では、高齢者の外出支援のため、タクシークーポン券を配布しているが、このような取り組みも検討してみてもよいのでは。	デマンドバスの本格運行が難しければ、ご指摘されたような対策も検討する。
採算があれば、交通事業者に委託し、合わなければ別の方法で、潜在的な交通需要を掘り起こす取り組みを検討すればよい。	本格運行時については、ご指摘の考え方で検討する。

4.調査・検証について

委員	事務局
PDCAに基づいた検証を行ってほしい。	実証運行中は、適宜、調査等で把握された問題点等を参考に、改善策を実施する。また、今回の実証運行結果を踏まえ、本格運行に向けた検討を進める。
調査票は、交通弱者の需要喚起など実験の効果を把握できる内容にすべき。	ご指摘を踏まえ、利用者、住民、主要施設のアンケート調査票を検討する。（資料④参照）

5.その他

委員	事務局
観光客向けのチラシに路線バスなどが掲載されていないが。	観光客向けのチラシは途中段階のものであり、観光客向けのルートが決まり次第、最寄りバス停等の情報を掲載する。
事前に交通事業者とデマンド実証運行について協議をしてほしかった。	事前に意見交換が出来なかった点については、お詫びする。